

令和7年度 第10号

学校教育目標:「ひと」とともに生きる生徒の育成



植竹中だより

目指す生徒像: 自ら考え、行動できる生徒「笑顔でおはよう」「笑顔でさようなら」

〒331-0804 さいたま市北区土呂町352

TEL 048(663)2115

令和8年2月2日(月)発行

学校 Web ページ



さいたま市立植竹中学校

FAX 048(665)6377

油断大敵

校長 上 続 昌 司

2月に入り、寒い日が続いています。また、長い間雨が降っていないこともあり、非常に乾燥しています。手洗い・うがい、睡眠、食事、休養をしっかりと取りながら、体調管理に気を付けて生活していきましょう。

さて、今回はタイトルにある「油断大敵」という言葉について触れてみたいと思います。

滋賀県にある延暦寺の根本中堂の中に、1200年間、途絶えたことのない「不滅の法灯」があります。この法灯を消さないように僧侶達が毎日欠かさず菜種油を注ぎ足し続けているそうです。一度でも油を断ってしまえば1200年間守り続けて来た火が消えてしまうことから、『油断大敵』という言葉が生まれたと言われています。

驚くことにこの油を注ぐ作業は、誰か決められた係の人がいるのではなく、気付いた人が油を注いでいるそうです。係を決めていたとしても、もし忘れてしまえば灯は消えてしまいます。誰かに任せっきりでなく、常に心のどこかにこの灯のことを気にかけて、大切にしているからこそ1200年もの長い間、消えることなく灯し続けられているのです。

では、私たちの今の生活を振り返ってみましょう。現代社会では、とても便利なものがそろっています。法灯の代わりに蛍光灯やLEDに代えてしまえば簡単に明るくすることができます。油を注ぎ続けるだけであれば、機械を作って適量の油を定期的に注ぐことは容易いことですね。さらに、あと数年もすればAI機能がレベルを上げて、このような単純作業であれば人間ではなくロボットにできる時代が来ます。しかし、どれだけ正確につくり上げたとしても、果たして1200年もの長い間、壊れることなくロボットは油を注ぎ続けられるでしょうか？やはりいつかは壊れて修理をするか新しい物に代える時が来るでしょう。そして、ロボットが壊れたことに気付かなかったとしたら、灯は消えてしまいます。毎日光を灯すだけの事であっても、続けることは大変難しい事なのです。「ロボットがやってくれるから大丈夫」と、思うその心はすでに「油断」しています。

普段の私たちの生活の中でも、つい気が緩む時があります。「何回か練習したからもう大丈夫でしょう」、「自分の所にはボールは飛んでこないよ」等と、自分の都合のいいように考え油断してしまった経験は皆さんにもあると思います。もし、それが試験や大会、コンクール等のとても重要な場面だったら、どんな結果になるでしょう。長い時間をかけて身に付けてきた力を発揮できないまま終わらないためにも、日頃からしっかりと「準備」することが大切です。油断大敵の『大敵』とは、油断している自分自身なのです。

